

## 【(1) 学習のルール】

### ⑤「ノートを取り方を決めている」

#### 《つまづきの背景》

F 視覚認知の困難さ、H 刺激の選択の困難さ

#### 《解説》

ノートの取り方についてルールを決め、最初の授業で確認しておく、子どもはノートが取りやすくなります。

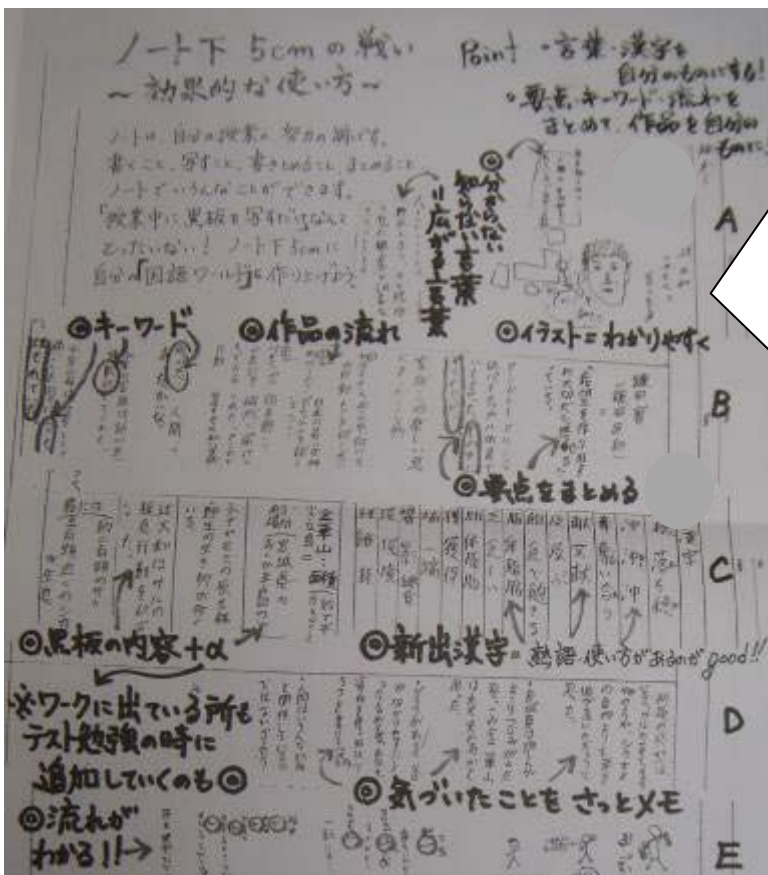
学級の中には、ノートの取り方が分からないために、どこにでも書いてしまい、後で見直したときに何を書いてあるかが分からなくなってしまう子どもがいます。ノートの取り方の見本を示すことで、書く場所や何をどう書けばよいかが分かり、見やすいノートを取ることができるようになります。

ノートの取り方の見本を配付し、ノートの取り方を最初の授業で確認するようにすると分かりやすくなります。

#### 【工夫点】

- ・ノートを取るときのルールを示す。(小中高)
- ・ノートの取り方の見本を配付する。(小中高 工夫例9)

#### ◆工夫例9「ノートの取り方の見本を配付する」



#### 《国語（中学校1年生）》

最初の授業でノートの取り方について説明をします。

ノートに線を引いて二段に分け、上段には板書を写し、下段(5cm程度)には板書以外のメモや自学自習したことを書くように伝えます。また、ノートには日付と教科書のページ数を必ず書かせるようにします。

ノートの下段の使い方について、工夫している子どものノートをコピーしてポイントを書いて配付するようにします。

子どもは、ノートの取り方が分かりやすくなり、見本を参考にし、自分なりに分かりやすくノートを取れるようになります。

①は、自分の考えを書く

②は、班の意見を書く

③は、まとめを書く

などのマークを決め、分類して書くというルールを決めることで、分かりやすいノートになります。

